

岡山大学病院に「小児・AYAがん総合センター」を新設

2024年4月1日（月）、**小児・AYA世代（0～39歳）の血液・腫瘍疾患の患者さん**に対して、小児期から成人期に至るまで切れ目なく総合的な診療と支援を行う「**小児・AYAがん総合センター**」を岡山大学病院に新設します。

目標：診療科等の枠を超えて総合的に小児・AYAがん患者に対して高度な診療と支援を実施し、**患者とその家族が安心して適切な診療と支援を受けられる環境を整備**するとともに小児・AYAがんに関する**チーム医療に基づいた教育・研究の向上、患者・市民参画の推進、地域の医療機関との連携の充実と発展**を目指します。



塚原宏一

「小児・AYAがん総合センター」運営体制

《主要診療科》小児科、**小児血液・腫瘍科**、小児外科、血液・腫瘍内科、消化器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化管外科、肝・胆・膵外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、泌尿器科、整形外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、脳神経外科、産科婦人科、臨床遺伝子診療科

《協力診療科等》麻酔科蘇生科、救命救急科、放射線科、病理診断科、緩和支援医療科、精神科神経科、形成外科、小児心身医療科、小児歯科、歯科、口腔外科、医療支援歯科治療部、スペシャルニーズ歯科センター

第4期がん対策推進基本計画 (令和5年3月28日閣議決定)

第1. 全体目標と分野別目標 / 第2. 分野別施策と個別目標

全体目標：「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」

「がん予防」分野の分野別目標

がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す

1. がん予防

- (1) がんの1次予防
 - ①生活習慣について
 - ②感染症対策について
- (2) がんの2次予防（がん検診）
 - ①受診率向上対策について
 - ②がん検診の精度管理等について
 - ③科学的根拠に基づくがん検診の実施について

「がん医療」分野の分野別目標

適切な医療を受けられる体制を充実させることで、がん生存率の向上・がん死亡率の減少・全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

2. がん医療

- (1) がん医療提供体制等
 - ①医療提供体制の均てん化・集約化について
 - ②がんゲノム医療について
 - ③手術療法・放射線療法・薬物療法について
 - ④チーム医療の推進について
 - ⑤がんのリハビリテーションについて
 - ⑥支持療法の推進について
 - ⑦がんと診断された時からの緩和ケアの推進について
 - ⑧妊孕性温存療法について
- (2) 希少がん及び難治性がん対策
- (3) 小児がん及びAYA世代のがん対策
- (4) 高齢者のがん対策
- (5) 新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装

「がんとの共生」分野の分野別目標

がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

3. がんとの共生

- (1) 相談支援及び情報提供
 - ①相談支援について
 - ②情報提供について
- (2) 社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援
- (3) がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）
 - ①就労支援について
 - ②アピアランスケアについて
 - ③がん診断後の自殺対策について
 - ④その他の社会的な問題について
- (4) ライフステージに応じた療養環境への支援
 - ①小児・AYA世代について
 - ②高齢者について

4. これらを支える基盤

- (1) 全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進
- (2) 人材育成の強化
- (3) がん教育及びがんに関する知識の普及啓発
- (4) がん登録の利活用の推進
- (5) 患者・市民参画の推進
- (6) デジタル化の推進

第3. がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

1. 関係者等の連携協力の更なる強化
2. 感染症発生・まん延時や災害時等を見据えた対策
3. 都道府県による計画の策定
4. 国民の努力
5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
6. 目標の達成状況の把握
7. 基本計画の見直し

- ・ がん対策推進基本計画は6年毎第4期（2023～2029年）の基本計画
- ・ 小児・AYAへの注力が求められる

岡山大学病院における小児・AYAがんの患者数

診療科	のべ患者数
小児科	315
乳腺・内分泌外科	242
産科婦人科	181
血液・腫瘍内科	110
呼吸器・アレルギー内科	97
脳神経外科	90
泌尿器科	75
放射線科	74
整形外科	70
消化器内科	58
呼吸器外科	50
消化管外科	49
形成外科	47
皮膚科	26
耳鼻咽喉・頭頸部外科	24
肝胆膵外科	13
小児外科	10

- ・ 最近5年間の入院
- ・ 主病名が悪性腫瘍
- ・ 入院時39歳以下の患者さんを抽出

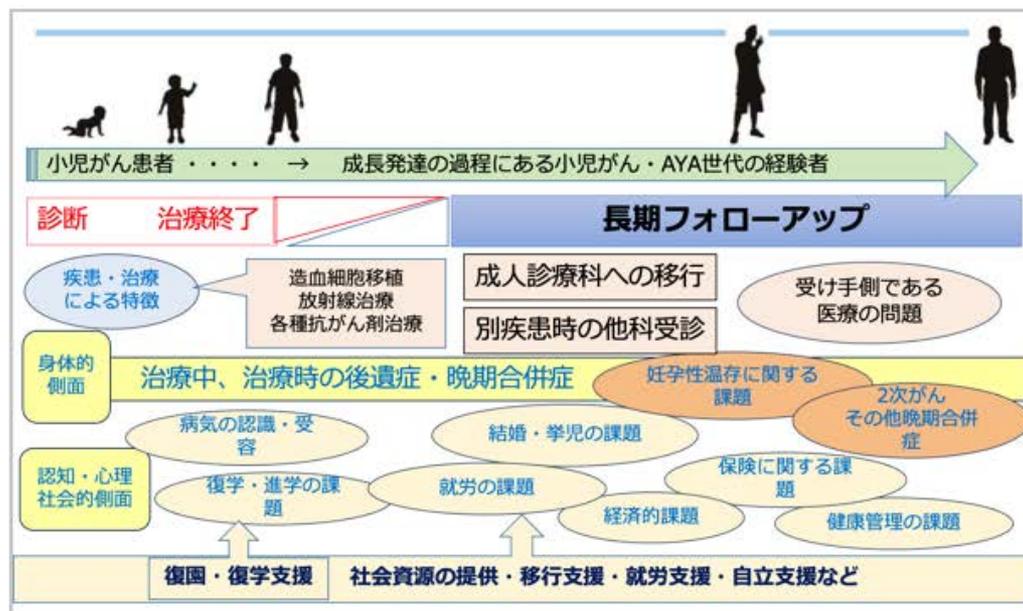


日本全体、米国の分布と大きな相違はない

小児がん経験者の増加

小児がんの予後は改善し、経験者は増加している

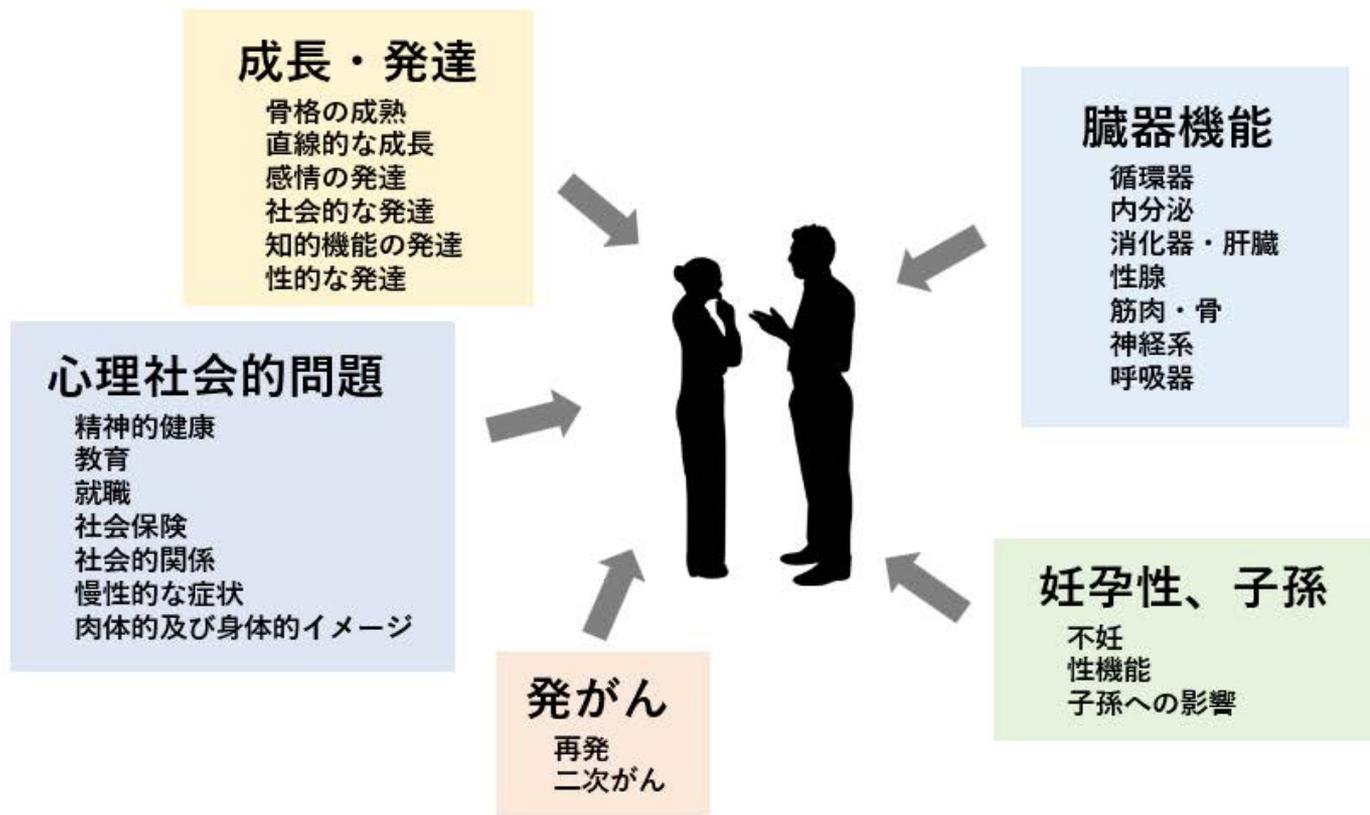
- ・小児がんは、概ね80%で治癒が見込まれる → 治癒後の「小児がん経験者」は多く、**若年成人700人に1人、日本全体で10万人程度**おられると推定される
- ・小児がん経験者は様々な特有の問題を経験しうるため、**切れ目のない継続的なサポート（横の軸）**が必要である



厚生労働省委託事業「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップ体制整備事業」
(一般社団法人 日本小児血液・がん学会) 講習会スライドより

小児・AYA世代がんの晩期合併症

様々な側面からのサポートが必要（縦の軸）



「小児・AYAがん総合センター」が担うべき役割

“ライフステージに応じ、成人診療科と連携した、切れ目ない相談支援体制”

- ・緩和ケア：入院時からの一貫したサポート → 緩和支援医療科
- ・妊孕性温存：産科婦人科 / リプロダクションセンター
- ・がんゲノム医療、遺伝カウンセリング：臨床遺伝子診療科
- ・心理面（患者の子も含む）：小児心身医療科、精神科神経科
- ・枠組みを利用した移行期医療の充実
- ・アピアランスケア：腫瘍センター内のアピアランス外来との連携
- ・人材育成：がんプロとの連携
- ・心理面の支援：VRを用いたピアサポート（医療情報化診療支援技術開発講座 長谷井准教授）
- ・治療コンプライアンス改善への取り組み
- ・就学支援：教育学部との連携（吉利教授）
- ・就労支援：行政との連携を強化（センター化のメリット）
- ・情報提供：ワンストップ情報源としてのHP作成、市民公開講座などの開催
- ・その他、AYAがん診療科の感じている課題の抽出と解決（PDCAサイクル）

岡山大学 News & Release



LANGUAGE ENGLISH CHINESE

お問い合わせ

交通アクセス

検索...

受験生の方

在学生・保護者の方

卒業生の方

企業・研究者の方

社会人・地域の方

岡山大学について

学部・大学院・病院等

教育・学生生活・就職

研究・産学連携

社会連携

国際交流 入試

「岡山大学×READYFOR」クラウドファンディングプロジェクト公開～『入院中でも勉強がしたい』病とたたかう子どもの想いに応える環境整備を～

2024年03月13日

岡山大学病院小児科は3月13日、クラウドファンディングプロジェクト「『入院中でも勉強がしたい』病とたたかう子どもの想いに応える環境整備」の公開をREADYFOR株式会社のプロジェクトページで行い、寄付金の募集を開始しました。

プロジェクトの成立に向けて皆様のご支援をよろしくお願いいたします。また、ご家族・ご友人等に広めていただくなどのご協力をいただければ幸いです。

<プロジェクト概要>

岡山大学病院「小児医療センター」には、難治性の病気のために長期入院を余儀なくされる子どもがたくさんいます。入院して病気とたたかっている間も子どもたちが学習を継続できるよう、リモートでの教育支援の実現を目指して本プロジェクトを立ち上げました。

- ・実行者：学術研究医色薬学域 塚原 宏一 教授
- ・タイトル：『入院中でも勉強がしたい』病とたたかう子どもの想いに応える環境整備

- ・公開ページ：https://readyfor.jp/projects/okadai_shoniryo
- ・公開期間：2024年3月13日（水）～5月10日（金）23時
- ・使用目的：入院中の子どもたちがリモートでの教育支援を受けられるようにするための教育教材の購入
- ・目標金額：300万円
- ・成立形式：All or Nothing形式（期間内に集まった寄付総額が目標金額に到達した場合のみ、寄付金を受け取ることができる仕組み）

※詳細な情報は[こちら](#)からご確認ください

【本件問い合わせ先】
岡山大学病院 小児科
E-mail: pediatr@md.okayama-u.ac.jp
※@を@に置き換えています。



本プロジェクト実行メンバー

2024年3月13日（水）発進



目標金額 **300万円** 2024年 **3月13日（水）** から **5月10日（金）** まで

岡山大学病院 小児科 がクラウドファンディング挑戦中！

「入院中でも勉強がしたい」 病とたたかう子どもの想いに応える環境整備を

※本プロジェクトはAll or nothing方式のため、募集終了日までに目標金額に到達しなかった場合、いただいたご寄付は返金いたします。
※本プロジェクトへのご寄付は岡山大学へのご寄付となり、**税制優遇の対象になりません。**

岡山大学病院小児科は設立以来約130年となり、長い歴史と伝統があります。当小児科は中国四国地域の基幹小児科として、この地域の小児医療を支えてきました。そして、当院では、2012年9月に先進的で総合的な小児医療を目指して「小児医療センター」が設置されました。当センターは内科系・外科系にとどまらずこころの診療まですべての領域で、最適な高度医療を提供しています。

当院の「小児医療センター」には、難治性の病気のために長期入院を余儀なくされる子どもがたくさんいます。学校に通えない間、切れ目なく学習を支援するために院内学級（小・中学校）が設置されていますが、支援のための人や物資はきわめて限定的です。また、院内学級のない高校生への教育環境の整備は、小・中学校に比べてさらに遅れています。

このような課題を解決するため、私たちは、「リモートでの教育支援」に挑戦します。具体的には、パソコン、ヘッドセット、モニターとして使用できる電子黒板といった資材を準備し、体調が変動しやすい子どもを援助するスタッフを配置して、元々在籍していた学校や岡山大学教育学部の先生による遠隔教育支援を受けられるようにしたいと考えています。

入院して病気とたたかっている間も、子どもたちが学習を継続できるよう、皆様のお力をいただけないでしょうか。皆様の温かいご寄付をどうぞよろしく願っています。

READYFOR

岡山大学病院 小児科 レディーフォー



お問合せは、岡山大学病院 小児科 秘書 まで直接ご連絡ください。

EMAIL: pediatr@md.okayama-u.ac.jp

https://readyfor.jp/projects/okadai_shoniryo